予告殺人事件

坂口安吾

青空文庫

敵は中小都市の予告爆撃といふものをやりだしたが、これはつまり予告殺人事件と同じ性質のものだと思はれる。予告殺人事件といへば概して復讐などの場合、たゞ殺しては面白くないといふので予告を与へ、恐怖混乱せしめ苦痛を多くして満足しようといふ悪質残忍なものである。

尤も、予告することによつて真の犯罪意図をくらまさうとするのも予告殺人に於ける一つの型で、真の意図は予告せざるところにある。つまり県市を予告爆撃するが真の狙ひは他の都市工場にあるといふ型で、之も屢々(しばしば)用ひられる。

★

アメリカ文化はスポーツ、スリル、セックスの三Sだと云はれるが、スリルは即ち知識的には探偵小説、実践的にはギャングとGメンで、凡そアメリカ文学は文化国に於る最下等に属するものだが、探偵小説だけは例外で多くの傑作を生んでゐる。又、セックスと云つても、日本の恋愛は一般に純情であり潔癖淡白で、好かれた同志が外部の障碍を突破して目出たしといふ筋書であるが、アメリカは然らず、厭がる女を長年月にわたり手練手管、金にあかし術策を尽して物にするといふ脂ぎつた性質である。

要するにスポーツ、スリル、セックス、品は変れども同趣味で、執拗なる根気と、術策と手管、之が彼等の日常の人生であり趣味であり信条だ。

戦術といへども日常性を以て推測すべからざる深遠な秘法があるわけではなく、むしろアメリカの戦法は三Sの延長であり、その術策手管の挙国総力的な集大成に外ならぬと思はれる。

ところが、日本人は探偵小説に於けるアメリカの被害者達とは全く類を異にしてゐる。日本人は概してユーモアに乏しく、又之を好まぬ傾向があるが、実は根柢的に楽天的な国民で、日本人がシンから悲観し打ちのめされるなどといふことは殆ど有り得ぬ。

私の隣組は爆弾焼夷弾雨霰とも称すべき数回の洗礼を受けたのであるが、幼児をかゝへた一人の若い奥さんが口をすべらして、敵機の来ない日は淋しいわ、と言つたといふ。私は之をきいて腹をかゝへて笑つてしまつたが、全く日本人は外面大いにつらさうな顔をして毎日敵機が来て困りますなどと言つてゐるが、案外内心は各々この程度の弥次馬根性を持つてゐるのではないかと思つた。

焼けだされた当座はとにかくやがて壕生活も板につけば忽ち悠々たる日常性をとりもどしてしまふ。爆撃中は縮みあがるが、喉元すぎれば忽ち忘れる。私の隣組には幼児や老人達がたくさんゐるが、物資の不足といふ一点をのぞけば爆撃に対しては不感症の如く洒々（しゃあしゃあ）としてゐる。この隣組は工場地帯にあり他地域に比して遥かに多くの爆撃を受けてきた。そして却つて落着いたといふ有様である。

日本の都市は建築物に関する限り欧洲と比較にならぬ爆撃被害を蒙るけれども、国民の楽天性はとてもアメリカの爆弾だけでは手に負へまい。私は焼跡の中からそれを痛感し、アメリカの探偵小説の要領ではこの楽天性を刺殺できまいといふことを微笑と共に痛感してゐるのである。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集　03」筑摩書房
　　1999（平成11）年3月20日初版第1刷発行
底本の親本：「東京新聞　一〇四四号」
　　1945（昭和20）年8月12日
初出：「東京新聞　一〇四四号」
　　1945（昭和20）年8月12日
入力：tatsuki
校正：noriko saito
2008年9月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

予告殺人事件

坂口安吾

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/